

南仏治安情報（7月分）

● テロ、反社会的活動、大規模デモ（邦人被害なし）

（1）ニースにおける、ジハーディストの逮捕

「聖戦」に参加するため6月末にシリアに向かった17歳の男が、その後父親の説得に応じて帰仏したが、7月初旬にニース空港に到着した時点で「テロ活動を目的とした犯罪者集団」容疑で逮捕された。同人に対しては、現地で処刑に加わったという情報から「故意の殺人」容疑も掛けられている。この男とともにシリアに赴いた兄23歳はフェイスブック上で「自分にとって政府はアラー、法はシャリア、報酬は殉教、アラーの思し召しのままに」と記しており、帰仏には至っていない。

（2）南仏等におけるテロ計画（テロリストの供述により判明）

昨年6月にヴォークリューズ県ソルグにてテロ関連容疑で逮捕された男が、その後の捜査によりイスラム・マグレブ諸国のアル・カーイダ(AQIM)と共に仏国内でのテロを1年間画策していたことが判明した。彼らのテロ候補地に挙げたのは、エッフェル塔、ルーブル美術館に加え「南仏で一月に渡り多数のキリスト教徒が参加する文化行事（アヴィニョン演劇祭とみられる）」であった。なお、この男はインターネットを通じてジハーディストとなったもの。

（3）アルビにおける、聖戦リクルーターの拘束

22日、アルビで「暴力的行動」を準備し、シリア聖戦に参加する兵士を募っていたとみられる男2名と女1名が拘束された。この3名はジハーディスト細胞及びモハメッド・メラを引き寄せたトゥールーズのイスラム主義運動に属すると疑われており、アルビ及びトゥールーズを中心に活動していた。

● 殺人（邦人被害なし）

（1）アルビ発生、小学校での殺人事件

4日朝方、小学校の教師が、自分が担任をしている女兒の母親に刺殺された。事件発生当時は始業時間前で、大勢の児童が見ていた中での凶行であった。犯人の女性は即日逮捕されたが、同女に精神疾患があることから責任能力の有無が裁判の争点となるとみられている。

（2）マルセイユ発生、逮捕監禁・殺人事件

11日午後、14区のシテ Le Mail 内でサンドイッチを食べていた男性が2人組の男に絡まれ、暴行を受けた末2人組が乗っていた車のトランクに押し込められる事件が発生した。翌日午後、約1km離れた路上で燃やされた車が発見され、中から銃撃を受けた痕のある黒焦げ遺体が見つかり、DNA鑑定により同遺体が前日に連れ去られた被害者であることが判明した。警察は本件捜査を開始し、12時間後に犯人2名を特定・逮捕した。

（3）ヴァロリス発生、殺人及び放火事件

13日深夜、サン・ベルナル通り脇にある倉庫エリアでキャンピングカーが燃えているのが発見され、消防隊により鎮火されたが、焼け跡から黒焦げとなった男性の遺体が見つかった。警察は、状況的に殺人事件の可能性が高いとみて捜査を進

めている。

(4) マルセイユ発生、対立抗争による殺人事件

17日夕方、15区サン・タントワン通りに大型スクーターに乗った男2人組が現れ、36歳男性の背中に銃弾を3発撃ち込み逃走した。被害者は即死した。この被害者の兄弟が2006年1月に対立抗争で殺害されており、今回も被害者が抗争に巻き込まれたものとして捜査が進められ、後日バール・エタング在住の本件犯人が逮捕された。

(5) セット発生、殺人事件（行方不明者の遺体発見）

6月23日から行方不明になっていた49歳男性が、警察の捜索により17日遺体で発見された。発見場所はサン・クレール山地下に掘って作られたギャラリー内で、男性は頭部と肩部を猟銃で撃たれ死亡していた。この男性は行方不明になる前、「知り合いの女性と数年振りに再会してくる」と言っており、その後彼の携帯電話とスクーターが墓地で発見されたのみで行方が分からなくなっていた。以後警察は2名の容疑者を検挙するも、嫌疑不十分で釈放され、男性が会う約束をしていた女性についても特定できない中での遺体発見となった。

(6) マルセイユ発生、薬物抗争による殺人事件

18日、14区のシテ Font Vert でスクーターに乗車中の24歳男性が、カラシニコフを持った何者かによって殺害された。被害者は麻薬密輸の犯罪歴があり、警察は薬物密売組織同士の縄張り争いが原因とみて捜査を進め、後日対立勢力に属する本件犯人を逮捕した。なお、被害者はマルセイユ副市長の甥であり、被害者の兄も2年前に似たような状況下で殺害されている。

(7) マルセイユ発生、対立抗争とみられる殺人事件

18日夜、14区 Sainte-Marthe 地区の道路上で車に乗った何者かがカラシニコフを50発撃ち、別の車を運転していた24歳男性を即死させた。被害者の車には女性も乗っていたが、同女は銃撃を免れ車外に逃走した。また、被害者車両の前を走行していたスクーターの男性も流れ弾に当たりそうになったが幸い無事であった。警察は本件を対立抗争とみて捜査を開始した。

(8) タラスコン発生、猟銃使用殺人事件

21日夜、33歳の男性が Rene-Cassin 大学前で何者かに猟銃で胸部を撃たれ、ヘリコプターで病院に搬送されたが死亡した。警察当局は本件犯行が対立抗争時に用いられる手法と酷似していると認識しながらも、個人的怨恨及び流しの犯行の可能性も排除せず捜査を進めている。

● 強盗（邦人被害なし）

(1) マルセイユ発生、倉庫強盗事件

3日午後、3区ドクター・レオン・ペリン通りにあるデパートの商品倉庫にトラックがやって来て、中から出てきた男女7名が揮発性の液体入り瓶とライターを示して倉庫作業員を脅しつけ、販売価格25,000ユーロ相当の家電製品を奪い逃走した。

(2) ヴァール県 Signe 発生、採石場を狙った強盗事件

21日、トゥーロン近郊の Signe にある採石場に武装した強盗1名が押し入り、

作業員を脅しつけ発破用の起爆装置を奪って車で逃走した。

● 性犯罪

(1) ピレネー・オリアンタル県 Argeles-sur-Mer 発生、集団強姦事件

1日未明、リヨンから観光でやって来た19歳と20歳の女性2名が、Charles-Trenet 広場付近を歩いていたところを若者一団に取り囲まれ、性的暴行被害に遭った。警察は被害者の衣類から犯人特定に向けDNA採取等を行ったが、今のところ逮捕には結びついていない。

なお、同県ペルピニャンでは6月下旬の白昼に26歳女性が中心街路地で2人組の男にナイフで脅され暴行現場を動画撮影される被害を受けた旨の訴えがあったが、これについては後日虚偽の申告と判明した。

● 傷害（邦人被害なし）

(1) マルティエグ発生、重傷傷害事件

18日午後、住宅街において2組のグループによる口論がエスカレートし、40代男が36歳男性の脚を銃で撃つという事件が発生し、撃った男はすぐに逮捕された。

(2) オーバーニュ発生、夫婦間の重傷傷害事件

20日早朝、夫婦喧嘩に端を発し、自宅内で夫が妻の頭部を銃撃する事件が発生した。現場が警察施設の直近だったこともあり警察はすぐに自宅を包囲したが、男は既に車で逃走しており、結局同日午後マルセイユ11区内で身柄を確保した。女性は病院に搬送されたが、生死の境をさまよっている状態にある。

(3) マルセイユ発生、男児によるエアライフル発砲事件

23日、5区サカキニ通り上で通行人が狙撃される事件が相次いで発生した。警察が狙撃場所とみられるアパートを特定し踏み込んだところ、出てきたのは9歳の男児で、犯行に用いたエアライフル銃を差し出した。警察は母親から事情を聴取し、子どもについては説諭処分とせざるを得なかった。被害者は全員軽傷で済んだものの、病院で銃弾を摘出しなければならないケースもあり、危険極まりない悪戯であった。

● 薬物関連

(1) バスティアにおける、マフィア首領の投獄

昨年4月にコロンビアから南仏に運ばれた魚雷の中からコカイン101kg（末端価格400万ユーロ相当）が発見された事件で、18日、麻薬密輸集団のボスであるバスティア在住の男が投獄された。この他共犯者6名が裁判の結果を待つ状態にある。コロンビアからの麻薬密輸ルート摘発に向けては2009年から当局が捜査を進めていた。

● その他特異事件（邦人被害なし）

(1) 南仏における、金融事犯の取締り

2日から3日に掛けて、カンヌ、ニース、トゥールーズ及びブリュッセルでビッ

トコイン取引網の捜査に関連して家宅捜索が行われ、「不法銀行業務遂行」の罪で2名（仏人とチュニジア人）検挙された。犯人らが管理していたインターネット上の取引サイトは、本来備えていなければならない仏の銀行・保険業監督機関の承認を得ていなかった。犯人らのサイトは昨年11月から本年7月の間に2,750件の金融業務を行い、総額100万ユーロ以上の取引を行っていた。4日、金融市場当局は銀行に対し、ビットコインに伴う危険性について改めて触れ、関与しないよう注意喚起した。

(2) マルセイユ他発生、カーボ・ヴェルデ人による不法入国事件

12日、マルセイユ他において、カーボ・ヴェルデから不法入国していた者が一斉検挙された。この日の検挙人数は47名、うちマルセイユでの検挙が22名であった。検挙された不法移民らは、偽造されたポルトガルの身分証明書や運転免許証等を用意して仏国内への入国を果たし、仏社会保障制度の恩恵を受けていた。

※ ここに掲載した事件は新聞等の公開情報を基にまとめておりますが、掲載した事件以外にも日々各種事件が発生していることを申し添えさせていただきます。